

### 1 保存と活用のコンセプト

整備テーマ（整備基本計画）	保存と活用のコンセプト ※整備テーマの実現に向けて最も大事なことは何か
<p><b>みんなで育む・感じる・発見する縄文のふるさと</b></p>	<p>育む…何度も訪れたくなる、みんなで育む意識を醸成するために… ⇒<b>つながりを育む</b>                  感じる…歴史学習の場、体験活動を通し縄文に思いをはせるために… ⇒<b>学びを深める</b>                  発見する…現在の地域社会や暮らしを考える温故知新の場となるために… ⇒<b>創意工夫を呼びかける</b>                  縄文のふるさと…ふるさと、くつろぎの場となるために ⇒<b>自然環境を保全する</b></p>
<p><b>育む</b> ～大切に守り伝えていく郷土の遺跡</p>	<p><b>(1) つながりを育む</b>                  ○学芸員の存在は、ガイドンス施設の魅力の一部です。楽しい解説や質問のやりとりを通じて、初めは興味がなかった人でも次第に興味を持ち始めるかもしれません。下布田遺跡で働く学芸員その他スタッフが居場所となって、様々な「つながりづくり」の中核を担いながら、下布田遺跡を次世代へ継承し、多面的な価値を活用する取組を支えます。                  ○市外からの来園者にとっては、ローカリティー（ぬくもり・やさしさといった地域性）も史跡公園の魅力の1つとして映るかもしれません。史跡を中心とした地域住民の日常の営みや活気も、地域資源としての価値により一層の深みを与えます。そのため、地域、ボランティア、派生する学習サークルとの関わりを大切にしながら「つながりづくり」、保存と活用の「担い手づくり」の取組を推進します。</p>
<p><b>感じる</b> ～縄文の暮らしに思いをはせる空間</p>	<p><b>(2) 学びを深める</b>                  ○下布田遺跡を理解する上で欠かせないテーマの1つは、「変換期の時代を生きた縄文人と祈り」というテーマです。水田稲作の発生とともに出現する時代の変化を肌で感じながら、縄文人は何を祈ったのでしょうか。先行きが不透明で予測困難な時代を生きる現代人が、展示を見終わったあとの余韻（縄文に思いをはせる）を楽しむことができるよう、展示への没入と没入感からの解放を楽しむ空間づくりに努めます。                  ○縄文時代の土器や土偶の造形の魅力は、理屈抜きに現代人の感性に突き刺さりやす。また、近年の「縄文ブーム」も手伝って、YouTubeなどの映像情報も比較的多く、学びのハードルは低くなっています。歴史を学ぶ面白さを早い段階から獲得できるよう、また、学校教育における「主体的・対話的で深い学び」に資するよう、小中学生を対象とした様々な学びを展開していきます。</p>
<p><b>発見する</b> ～縄文から未来を見つめる「温故知新」の場</p>	<p><b>(3) 創意工夫を呼びかける</b>                  ○縄文土器の土器や土偶の造形美は、現代の創作活動に刺激を与えます。自分の解釈や美的感覚で、自分なりの土器や土偶を作ってみるのも面白さの1つです。また、様々な知見から紡ぎだされるストーリー（自然に抗わない生き方、土器や土偶から推測する精神世界、文字がなく口伝や体験で継承される文化）も魅力の1つです。これらの知見を磨きあげ、創意工夫の観点から、様々な取組を展開します。                  ○市民WSでは、多摩川花火の観覧、災害時の炊き出し訓練、バーベキュー、コンサート、わんわんパトロールなど史跡の活用に関する様々な意見がありました。文化財のマネジメントには、「持続可能性」「実現可能性」「地域との関わり」をも含むものであることを念頭に、来園者の多様な学びや発見、地域の活力の向上など、創意工夫による取組を呼びかけます。</p>
<p><b>縄文のふるさと</b> ～みんなでつくる史跡公園</p>	<p><b>(4) 自然環境を保全する</b>                  ○下布田遺跡は、近隣住民から「へび山」と呼ばれ、昆虫採集や散策、近隣小学校の総合学習の場として親しまれています。自然にくつろぎ、縄文の歴史に思いをはせながら歩く道のりが、ぬくもりとやさしさで溢れ、「地域の宝」として感じてもらえるよう魅力ある空間づくりを行います。</p>

## 2 コンセプトを踏まえた空間づくりのポイント

### (1) 来園者目線での場面展開（イメージ）

#### ◇園内での動き

- ア 遺跡公園に入る。自然の心地よさを感じる
- イ 縄文の自然や現代的でないもの（複製展示）を発見する
- ウ ガイダンス施設への案内板に目が行く
- エ ガイダンス施設へ歩いていく（縄文の魅力の予感）

#### ◇ガイダンス施設内（1階展示室）の動き

- オ 親しみやすいエントランス（職員の声掛け、VTR映像）
- カ 展示物や装飾が目に入る（縄文の物語の始まり）
- キ テーマごとに区切られた展示を巡る（物語への没入と理解）
- ク 主要テーマ（変換期を生きた縄文人と祈り）に気づく

#### ◇ガイダンス施設内（2階デッキ）の動き

- ケ 見学後に空想に浸ることのできるデッキに移動する
- コ 縄文の森、山並み、空を一望する（没入からの解放、余韻、空想）
- サ 過去、現在、未来に思いをはせる

#### ◇ガイダンス施設内（2階体験学習室）の動き

- シ 一緒に来た仲間と感想や空想を語り合う
- ス 補足資料による学習で学びを深める。
- セ ボランティアガイドさんと会話し学びを深める。縄文時代の面白さの再発見
- ソ 他の遺跡や下布田遺跡のイベント等の情報を得る。
- タ 人と人のつながりを実感する。地域を再認識する。
- チ 新たな発想を語り合い練り上げる。市民活動の拠点となる

### (2) 空間づくりのポイント（※1）

#### ア 自然環境を保全する（場面展開ア～エ）

- 史跡保存のための保護層を確保し、縄文晩期の地形形状を維持 ○解放型の公園とする（公園を柵で囲い閉鎖管理しない）
- 花粉分析の結果を踏まえた縄文の生育環境の再生（既存の樹木は樹勢や樹形が良好で史跡に支障とならない樹木以外は伐採）
- 施設や便益施設は作り物の印象を少なく ○主要園路は木質系舗装でバリアフリー対応。それ以外は土系舗装（けもの道）
- 縄文の植物の栽培と腐葉土の置き場を確保
- 防犯のため照明、柵等の設置（周辺の住宅環境に配慮した照明の個数・照度。防犯カメラ・ソーラー式蓄電の活用を検討）

#### イ 学びを深める（場面展開オ～サ）

- 園内の複製展示では、解説板やARを活用
- ガイダンス施設内では、縄文時代の生活技術と精神世界や、主要テーマ「変換期の時代を生きた縄文人と祈り」を感じられる展示
- 展示解説の文章は『むずかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く』を心がける。
- 時間を忘れ、主要テーマに没入できる展示空間を目指す。 ○没入感からの解放と余韻を楽しむ空間として2階デッキを活用
- 派生する疑問や不思議への答えやヒントとなるよう、関連する図書や映像資料などを配架
- 3クラス程度が回遊できるプログラム、空間、機能 ○知識と体験をつなぐ体験学習プログラムを検討、実施
- 都心に近い縄文遺跡として、他の遺跡に関する資料を配架、更なる探求の旅へといざなう。

#### ウ つながりを育む+創意工夫を呼びかける（場面展開シ～チ）

- 「地域の宝」と感じてもらえるよう、地元小学校や地域とのつながりを育むプログラムを展開する（史跡の保存・活用、維持管理）
- 駅からの移動の利便性や市内の回遊性の確保のため、シェアサイクルの設置場所を確保する。
- 史跡の保存と活用に関わる市民等の自立的な運営を支えるため、体験学習室に貸し出しを機能をもたせることを検討する。
- やぎによる除草を継続し、経費削減、くつろぎのある空間づくり、地域の活力の向上に寄与する。

※保存と活用のコンセプトに基づいて、創意工夫による様々な取組を展開する。地域振興・観光振興等の関連する施策と有機的につながっていくよう創意工夫を凝らす。

#### （※）整備基本計画における5つの基本方針

整備基本計画では、整備に関する5つの基本方針（①史跡の確実な保存、②縄文時代の生活技術と精神世界の表現、③自然環境を活かした憩いの空間、④来園者の利便性向上と体験活動の充実 ⑤市民参加による管理運営体制づくり）を掲げている。

### 3 ガイダンス施設の整備方針（概要）

#### (1) ガイダンス施設（※2）

##### ア 展示室（1階）

###### ◇未知との出会い

- ・実物に触れながら、縄文及び下布田遺跡に関する理解を深める。
- ・展示は、①縄文時代と下布田遺跡、②下布田びとの暮らし、③祈り、祀り、④交わり～文化の結節と広がり～、⑤下布田遺跡のその後、⑥企画展コーナーで構成する。

##### イ 事務室・情報コーナー

###### ◇施設と人をつなぐ

- ・学芸員やスタッフが案内や情報発信などを行い、施設と来館者のつながりを育む。

##### ウ 体験学習室（2階）

###### ◇知識と経験をつなぐ

- ・様々な体験メニューを用意し、学んだ知識を実践してみる。
- ・学校教育連携事業など団体利用の映像視聴室のとして活用する。

###### ◇ガイドボランティアと来訪者をつなぐ

- ・学芸員やガイドボランティアが居場所となりつながりを育む。
- ・講座・講演会、イベントなど他のプログラムの紹介

###### ◇人びとをつなぐ（地域、世代、分野）

- ・史跡の保存と活用の担い手の活動拠点

###### ◇みんなで創意工夫を凝らし新たな価値を創造する

###### ◇1階浸水の場合の展示物の避難

##### エ 2階デッキ（2階）

###### ◇過去・現在・未来を展望する

- ・室内体験学習室の拡充補完
- ・縄文の森、山並み、空などを眺め、学習内容を補完する機能
- ・展示の没入感から解放され過去、現在、未来に思いを馳せる場所的機能
- ・団体利用の場合など回遊性を確保する機能
- ・1階火災の場合の避難機能（デッキ階段から外へ）

##### オ ライブラリーコーナー（2階）

###### ◇既知と未知をつなぐ

- ・派生する疑問や不思議への答えとヒントを用意
- ・縄文に関する書籍の配架  
縄文の造形美（土器・土偶など）  
縄文の衣食住  
縄文の精神世界  
植物・生活技術
- ・他の縄文遺跡に関する資料の配架
- ・その他派生する学びに関する書籍の配架

##### カ その他

- ・授乳室（1階）
- ・倉庫（1・2階）
- ・トイレ（1・2階） ※2階は多目的トイレのみ
- ・屋内外フリーWi-Fi（検討中）
- ・ソーラー発電・蓄電（検討中）
- ・壁面植栽（検討中）

#### (2) ガイダンス施設隣接地

##### ア 北側公園

###### ◇史跡への主導入部

- ・総合説明板を配置
- ・井戸（検討中）
- ・ベンチ・水飲み場（検討中）

##### イ 南側斜面道路

###### ◇史跡への副導入部

- ・坂道として整備
- ・管理用車両の導入口

##### ウ 西側駐車場・駐輪場

###### ◇駐車場を配置

- ・管理用駐車場 1台
- ・身障者用駐車場 1台
- ・自転車等駐車場 20台
- ・シェアサイクル設置場所の確保
- ・大型バス乗り入れスペース確保

##### エ 西側緑地

###### ◇布田崖線の保全

- ・緑地保全をしながら修景整備

（※2） 整備基本計画における「ガイダンス施設に求める機能」

整備基本計画では、①展示解説機能、②体験学習機能、③休憩・案内機能、④管理運営機能 ⑤地域の交流拠点として掲げている。

## 4 ガイダンス施設の機能と役割

### 縄文に関する学習拠点機能

多様な展示，体験事業，学校連携事業など，郷土の歴史・文化を学ぶために必要な展示・学習機能

### 交流・活動拠点機能

地域住民の日常的な憩い・市民交流の場所的機能。史跡管理運営の担い手となるボランティア組織の活動拠点機能

### 管理運営機能

ガイダンス施設や史跡全体を管理する管理運営主体者の事務所機能

階	施設	機能	役割
1階	展示室	展示解説	○未知なものとの出会い ※疑問や不思議との出会い  ○施設と人をつなぐ ※学芸員やスタッフによる案内や情報提供
	エントランス	情報発信	
	事務室・倉庫	管理運営	
	トイレ・授乳室	便益施設・休憩	
2階	体験学習室	学校連携事業や自主事業での体験学習 講座・講演会 学校連携事業 史跡管理運営の担い手の活動拠点 ボランティア組織の活動拠点 展示遺物等の浸水避難	○知識と経験をつなぐ ※学んだことや実際にやってみる ○人びとをつなぐ（地域，世代，分野） ○自然と人間をつなぐ（環境保全） ○ガイドボランティアと来訪者をつなぐ ○創意工夫を凝らし新たな価値を創造する  ○既知と未知をつなぐ ※書籍や資料で疑問や不思議の答えを探す  ○過去・現在・未来を展望する ※学びのあとの余韻（空想）を楽しむ ※実際の景色を見ながら展示を補う
	ライブラリーコーナー	補足解説機能	
	デッキ	体験学習室（スペースの補完） 展望機能（補足解説，視点場） 回遊機能（外階段から園内へ） 火災避難機能（外階段から園内へ）	
	多目的トイレ	休憩案内機能	
	倉庫	管理運営機能	

## 5 史跡公園の整備方針（概要）

### (1) 各ゾーンの整備概要

項目	遺跡体験ゾーン	交流ひろばゾーン	自然ふれあいゾーン
造成	縄文晩期の地形の再現（保護層を300mm以上確保）		
複製展示	方形配石遺構 石棒集積遺構	合口土器棺墓 ※中期整備において設置	
案内・説明板・ベンチ	土製耳飾りと遺物集中域の説明板 ベンチ（方形配石遺構近く）  ※ARの活用検討（遺物集中域）	ベンチ（眺望点近く） 円墳（時代が異なるため検討中） ※ARの活用検討（円墳）	籃胎漆器と水源の説明版  ※ARの活用検討（縄文の生活）
動線・園路	主要園路（木質系舗装）バリアフリー 植物園園路（土系舗装） 管理通路（土系舗装）	主要園路（木質系舗装）バリアフリー ※中期整備において設置	自然ふれあい園路（土系舗装） 崖線下緩衝道路（ブロック仕様）
修景・植栽	<p>◆既存樹木伐採の考え方の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遺構に影響を及ぼす樹木は伐採           <ul style="list-style-type: none"> <li>覆土が多量（約45cm以上）の場合は酸素管設置又は伐採</li> </ul> </li> <li>巨木・老木化している樹木は伐採（樹勢・樹形が良好で緑陰やアイスストップとして有効な樹木は数本残地）</li> </ul> <p>◆縄文の自然の復元（縄文植物園・活用ひろば）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遺構の少ないエリアにのみ植栽           <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的には根が遺構面に影響を与えない技術を用いる</li> </ul> </li> <li>植生分析結果や他縄文遺跡の事例を踏まえて植栽           <ul style="list-style-type: none"> <li>※クリ、オニグルミ、コナラ、クヌギ、トチノキ、ハンノキ、ケヤキ、カエデ、アラカシ⇒植生調査で実在を確認</li> <li>※ミズナラ、ナツグミ、ヤマザクラ、コブシ⇒他の縄文遺跡での植栽事例あり（古来からの樹木）</li> </ul> </li> </ul> <p>◆カラムシ・豆など縄文の植物を栽培（活用ひろば）</p>		

※総合説明板はガイダンスゾーン北側公園と崖線下南東入口に設置 ※標柱はガイダンスゾーン近くに設置

### (2) 史跡公園の活用イメージ

#### ア 遺跡体験ひろば

- 縄文に関する様々な体験活動（火おこし体験，土器・土偶づくり，縄文弓矢体験など）を行う。

#### イ 交流ひろば

##### ◇人びとをつなぐ

- 創意工夫により活動・イベントを通じて交流を深める。

#### ウ 遊歩道・ベンチ

- 遊歩道，ベンチ，照明などを設置し，史跡をより活用しやすいものにする。自然の中のくつろぎを楽しむ。

#### エ 縄文植物園・活用ひろば

- 植物の栽培（くり，どんぐり，カラムシ，豆など）と腐葉土づくり

## 6 工事の対象範囲とスケジュール（予定）



R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
・実施設計	・工事（公園）【青枠内】 ・樹木伐採【全体】 ・分室解体工事，既存解体工事	・工事（ガイダンス施設）【緑枠内】	・工事（公園）【赤枠内】 ・工事（ガイダンス施設外構）【緑枠内】	・工事（看板設置等）【全体】 ・開園

(※3) 各年度工事範囲（太線）は実施設計において詳細を決定するため，境界（点線）は未確定。